



CHARM

報道関係各位

2021年1月8日

PRESS RELEASE

株式会社チャーム・ケア・コーポレーション

**介護付有料老人ホームを運営するチャームケアと東北大学の産学連携の取り組み
認知症改善プロジェクト第1回オンライン「チャームカレッジ」を
2020年12月24日（木）に開催**

～今これだけは知っておきたい！新型コロナウイルス感染症対策の基本～

首都圏・近畿圏を中心に介護付有料老人ホームを運営する株式会社チャーム・ケア・コーポレーション（本社：大阪府大阪市 / 代表取締役会長 兼 社長：下村隆彦 / 以下チャームケア）が主催する認知症改善プロジェクトの一環としていた「チャームカレッジ」を、2020年12月24日（木）にオンラインにて開催いたしました。



本カレッジは、介護の質を向上させるためにチャームケアが取り組んでいる「認知症改善プロジェクト」の一環であり、東北大学スマート・エイジング学際重点研究センターの村田裕之特任教授に監修頂いています。第1回となる今回は「**今これだけは知っておきたい！新型コロナウイルス感染症対策の基本**」をテーマに、村田特任教授より講義頂きました。

受講者は約1時間に渡る講義に真剣に耳を傾け、講談後の質疑応答ではコロナ禍の中で感じる感染に対する疑問などにもお答えいただき、「コロナ・リテラシー」の向上の重要性についても理解を深めました。

■ 講義内容のトピックス

- ✓ 新型コロナウイルスの感染サイクル、感染拡大の原因とはなにか。
新型コロナウイルス収束に向けて必要な集団免疫とは。
- ✓ 新型コロナウイルス用ワクチンとはどのようなものなのか。
3月から接種の始まるワクチンにはどれほど効果が望めるのか。
- ✓ 新型コロナウイルスに対抗するために抑制機能と活力の必要性について。
そのために必要なものとは30分の適度な運動とバランスの取れた食事。
- ✓ コロナ禍の中で有象無象の情報に惑わされない「コロナ・リテラシー」の向上が必要。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社チャーム・ケア・コーポレーション 広報・ブランド推進課 担当：小原・瀧野・正置
TEL：03-6419-3360 FAX：03-6419-3370 MAIL：pr@charmcc.jp

■ 講義内容①：新型コロナウイルス感染症はいつ収束するのか？

新型コロナウイルスの感染は「サイクル型」に感染者の増減を繰り返します。これは行動規制と規制緩和により起こるもので政治、行政の影響が大きいです。しかし、11月以降の日本での感染再拡大は「気温の低下」「湿度の低下」「人の移動の増加」が主な原因と考えられます。

ある研究によれば新型コロナウイルスは気温27度では約24時間で不活性化するのに対し、気温4度では約48時間とウイルス感染価の持続時間が2倍近くになります。また、湿度の低下はエアロゾルの量を拡大します。

一般に感染収束に向け必要なのは集団における再生産数を1以下に低下することで、そのためには集団免疫の獲得が重要です。日本の場合、人口1億2577万人に対し6割に当たる7546万人が免疫を獲得することが必要となります。

感染症が収束に向かうには、21年3月から予定のワクチン接種で実際にどれだけ免疫を獲得できるか、どの位の時間で人口の6割が免疫を獲得できるかによります。イギリスの調査会社によれば日本での収束は22年4月頃とのことです。

■ 講義内容②：ワクチンはどれ位予防効果が期待できるのか？

1. ウイルス感染の仕組み

新型コロナウイルスの感染はウイルスのスパイクタンパク質が体内上皮細胞の受容体に結合する事でウイルスゲノム（RNA）が細胞内に侵入して起きます。イギリスで確認されている変異種はスパイクタンパク質が変異して、感染力が70%以上強くなっているとする学者もいます。

2. 免疫の仕組み

ウイルスなどの病原体を排除する仕組みが免疫です。免疫には自然免疫と獲得免疫があります。これまでのワクチンは不活化した細菌やウイルスなどの抗原を培養したものを注射する事で体内に抗体をつくり、免疫を獲得します。

3. 新型コロナウイルスに対応したmRNAワクチンとは？

今注目されている新型コロナウイルスワクチンはmRNAワクチンと呼ばれ、細胞分裂する際にDNAが情報をコピーするm（メッセンジャー）RNAを利用したものです。新型コロナウイルスのスパイクタンパク質の設計コードが書き込まれたmRNAをヒトの細胞に入れ、抗体を獲得します。このmRNAワクチンが使用されるのは史上初めてとなります。mRNAワクチンは開発スピード、生産スピードが速いメリットがある一方で、従来投与実績がなく、極低温での輸送・保管が必要で保管設備が整っていない地域では扱いが難しいといったデメリットもあります。

4. mRNAワクチンの有効性

製薬会社が発表した第三相治験の結果では95%の予防効果が認められるとされており、65歳以上と定義される高齢者に対する予防効果は94%とされています。ただ、治験人数が少ないこと、3か月分のデータしかなく免疫の持続期間がまだわかっていないことなど不明点が多いのが現状です。製薬会社の発表ではワクチンを接種する事で重症化を防げるとの発表もあり重症化に対しても効果は認められるとしています。未発表データも多く、今後も情報の精査が必要です。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社チャーム・ケア・コーポレーション 広報・ブランド推進課 担当：小原・瀧野・正置
TEL：03-6419-3360 FAX：03-6419-3370 MAIL：pr@charmcc.jp

5. ワクチン接種の課題

ワクチン開発の課題としては、「抗体依存性感染増強（ADE）」と呼ばれる免疫細胞の暴走が症状を悪化させてしまう現象があります。

これまでに再感染した若い患者が重篤化した例も多数報告があり中途半端な免疫が悪さをしている可能性も指摘されています。

また、ウイルスは遺伝子変異が起きるものであり、大きな変異が発生すると必ずしもワクチンが効かない可能性もあります。しかし、現在確認されている範囲の変異であれば効果は認められるとされています。

■ 講義内容③：基礎疾患を改善・予防して感染時の重症化リスクを下げる

誰もが感染するリスクがあるなかで、たとえ感染しても重症化しないよう、そのリスクを下げるのが重要です。厚生労働省が示している基礎疾患の多くは生活習慣病によるものです。したがって、基礎疾患を改善・予防する事で重症化リスクを下げる事ができます。

生活習慣病の改善・予防には1日30分の「有酸素運動」が有効です。また、30分のサーキットトレーニングを1回行う事で「がまんする力」と「活力」が即時に向上することを東北大学が学術的に証明しています。

この二つの能力の向上はコロナ禍におけるストレスへの耐性を高めるためにも有効です。

さらに、メタボや低栄養による心身機能の低下に対しては、昭和50年代の和食である「スーパー和食」が効果的です。これは米のごはんを中心に魚類、豆類、海藻類を多く、そこに少し洋食を加えたメニューを指します。

代謝が活発になる事で内臓脂肪を減らし、消化吸收のスピードが遅くなり血糖値が上がりにくいのが特徴です。マウス実験ではがん発症率が現状の4分の1、糖尿病発症リスクが5分の1、認知症発症リスクが4分の1に低減したというデータも出ています。

■ 講義内容④：コロナの時代には「コロナ・リテラシー」の向上が必要

新型コロナウイルスについて除菌剤でウイルスが不活化できるなどの有象無象の情報が氾濫し、多くの混乱が起きています。

ウィズコロナの時代には「コロナ・リテラシー（正確に理解して活用できる力）」の向上が必要です。

一人ひとりの「コロナ・リテラシー」の向上に繋げていくのがチャームカレッジの目的です。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社チャーム・ケア・コーポレーション 広報・ブランド推進課 担当：小原・瀧野・正置
TEL：03-6419-3360 FAX：03-6419-3370 MAIL：pr@charmcc.jp

■ イベント開催概要

日 程 : 2020年12月24日 (木)

時 間 : 15 : 00~16 : 00

会 場 : オンライン開催 (「ZOOM」を活用したインターネット配信)

内 容 : 1. 新型コロナウイルス感染症はいつ収束するのか？
2. ワクチンほどの位予防効果があるのか？
3. 新型コロナウイルスに負けない健康づくりのコツは？

講 師 : 東北大学 村田 裕之 特任教授



村田 裕之 先生

東北大学特任教授
スマート・エイジング学際重点研究センター
企画開発部門長
感染症共生システムデザイン学際研究
重点拠点メンバー
東北大学ナレッジキャスト常務取締役

東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター特任教授、感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点メンバー、東北大学ナレッジキャスト常務取締役。村田アソシエイツ代表。日本のシニアビジネス分野のバイオニアとして多くの民間企業の新商品・サービス開発を支援。2006年スマート・エイジングのコンセプトを提唱し、センター設立に参画、日本発の対認知症非薬物療法「学習療法」の米国導入を実現した。高齢社会研究の第一人者として講演、新聞・雑誌への執筆、著書も多数。高齢化の国際情勢にも詳しく、海外諸国より頻りに講演者として招聘される。2018年5月Asia Pacific Eldercare Innovation Awardsにより優れた業績を上げた人としてGLOBAL AGEING INFLUENCERSに選ばれた。

【主な著書】

主な著書に「スマート・エイジング 人生100年時代を生き抜く10の秘訣」(徳間書店)、「親が70歳を過ぎたら読む本」(ダイヤモンド社)、「スマート・エイジングという生き方」(川島隆太教授との共著、扶桑社)、「どうする？親の家の片づけ」(PHP研究所)、など

第2回は、2021年1月29日(金)にZOOMを利用したオンラインにて開催いたします。
次回は、第1回と同じく村田裕之特任教授をお招きしての講義を実施いたします。

■ 会社概要

名 称 : 株式会社 チャーム・ケア・コーポレーション

所 在 地 : 大阪市北区中之島3丁目6番32号 ダイビル本館19階

代 表 者 : 代表取締役会長 兼 社長 下村 隆彦

事業内容 : 「介護付有料老人ホーム」及び「住宅型有料老人ホーム」の運営ほか

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社チャーム・ケア・コーポレーション 広報・ブランド推進課 担当 : 小原・瀧野・正置
TEL : 03-6419-3360 FAX : 03-6419-3370 MAIL : pr@charmcc.jp